

授業科目 高次脳機能障害学・高次脳機能障害学演習

【担当教員名】 今村 徹	対象学年	3	対象学科	言語
	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	各1計2単位	時間数	各15計30時間

【<概要>】

ヒトの脳は一次的な運動・感覚機能だけではなく、日常生活や社会生活をおくるために必要な記憶、注意、計算、思考、判断、学習などの機能を担っている。これらを認知機能（または高次機能）と総称する。本科目では成人の認知機能障害の診断と評価を学ぶ。現在の臨床現場では、急性期、慢性期を問わず驚くほど多数の患者が、さまざまな認知機能障害を診断・評価されないまま、不十分な治療・看護・介護・療養環境に甘んじている。認知機能障害を診断・評価できる人材のニーズは大きく、言語聴覚士も認知機能障害全般のコンサルテーションを受ける専門職（神経心理士）としての役割を求められるようになるであろう。本科目はそのような臨床現場のニーズに応えるための入門講座である。

【<学習目標>】

①代表的な認知機能障害の症候学とその機序を理解する。②患者の認知機能障害を診察して症候群として把握できる。③把握した認知機能障害を適切な検査・テストで描出できる。④患者の認知機能障害に関する情報をまとめ、提示することができる。

回数	授業計画又は学習の主題	学習方法・学習課題又は備考
	<p>(A) 学習の主題</p> <p>以下の主題のうち4項目をとりあげる予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・診察→検査→解釈：認知機能障害の評価の流れ</li> <li>・健忘症候群</li> <li>・前頭葉症候群</li> <li>・右半球症候群</li> <li>・痴呆</li> <li>・視覚認知障害の症候群</li> </ul> <p>(B) 学習方法</p> <p>各主題について以下の形式の授業を組み合わせで行う</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 教員による講義</li> <li>2) 学生による課題発表（ゼミ形式）</li> <li>3) 患者診察と評価（学外施設にて）</li> <li>4) 症例発表会（診察評価を行った患者について）</li> </ol> <p>2), 3), 4) は学生数名からなる小グループ単位で行う</p> <p>担当教員：今村 徹</p>	

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書	神経心理学入門	山鳥重	医学書院	1985年。6400円。ISBN：4-260-117
	脳損傷の理解：神経心理学的アプローチ	鈴木匡子訳	MEDSI	1993年。5800円。ISBN：4-89592-07
参考書	脳からみた心	山鳥重	日本放送出版協会	1985年。970円。ISBN：4-14-00148
その他の資料	適宜配布する			

【評価方法】 課題と症例の発表に合格した学生にレポートを課す。提出されたレポートの評価点を最終の成績評価とする。	【履修上の留意点】 『高次脳機能障害学』『高次脳機能障害学演習』の2科目は一体のものとして運用し、個々の授業がどちらのものかはあえて区別しない。
---	---

言語聴覚学科 専門